

「弱い絆」の大切さ ～補い合いのしなやかな強さ～

WHO(世界保健機関)ハンセン病対策のトップとして世界中を飛び回った
バングラデシュ出身のお医者さんに、星槎の卒業生兼卒業生保護者兼
職員が尋ねる星槎の心。笑いあり、涙ありで一緒に語り合しましょう！



講師 スマナ・バルア 博士
(バブさん)

星槎大学 卓越教授 / 元WHO 医務官

医師・医学博士。フィリピン国立大学医学部レイテ分校にて助産師、看護師、医師の資格を取得後、東京大学医学部大学院で国際保健計画学を学び、修士号、博士号を取得。元WHO(世界保健機関)ハンセン病対策の世界のトップとして地球規模で活躍。

故郷のバングラデシュや、医師として学んだフィリピン、そして日本で、地域医療や女性の健康と出産に取り組み、さらに日本の若い医療従事者の育成に長く取り組む。宮澤保夫星槎グループ会長との長い親交のご縁で、2019年より星槎大学の卓越教授となる。



モデレーター いのうえ はじめ
井上 一 さん

卒業生 / 卒業生保護者 / 学校法人国際学園スタッフ

星槎のスタートとなった塾「ツルセミ」を始めて間もない頃の宮澤保夫先生(星槎グループ創設者・会長)と9歳の時に塾生として出会う。以来、塾生からアルバイト、社員などを経て星槎に関わって48年を迎える星槎に数多くいる卒業生スタッフの一人。星槎の幼稚園・保育園・中学校・高校・大学などで「先輩」としてこどもたち等と関わり、次女が星槎国際高等学校を卒業したのちは「卒業生の親」として保護者等と関わる。星槎の職員としては「縁の下力持ち」ならぬ「縁の下のシロアリ」(自称)。でもなんとか人の役に立てるように力をつけたいという気持ちだけは失わずにいる。

たとえ自身が困難な状況にあっても、「誰かのために」を実践し続けてきたスマナ・バルア先生は、世界中の人々から親しみを込めて「バブさん」と呼ばれています。WHOを退官後、たくさんのおファーの中、なぜ星槎の仲間入りをされたのか？星槎で何を伝えたいのか？など、星槎の卒業生であり、卒業生保護者でもあり、スタッフでもある井上一さんが尋ねます。一緒に明日を生きることもちのこを語り合しましょう！

3月26日 土 10:00
～10:50



お申し込み

在学・卒業の校舎にご連絡いただくか、左のQR
コードよりお申込みください(※切:3/15)

主催



星槎全国親の会

協力

一般社団法人星槎グループ / 公益財団法人世界こども財団

星槎全国 保護者研修交流会

～親が繋がりに学び、元気になる～

